



3 ソフトウェア 編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

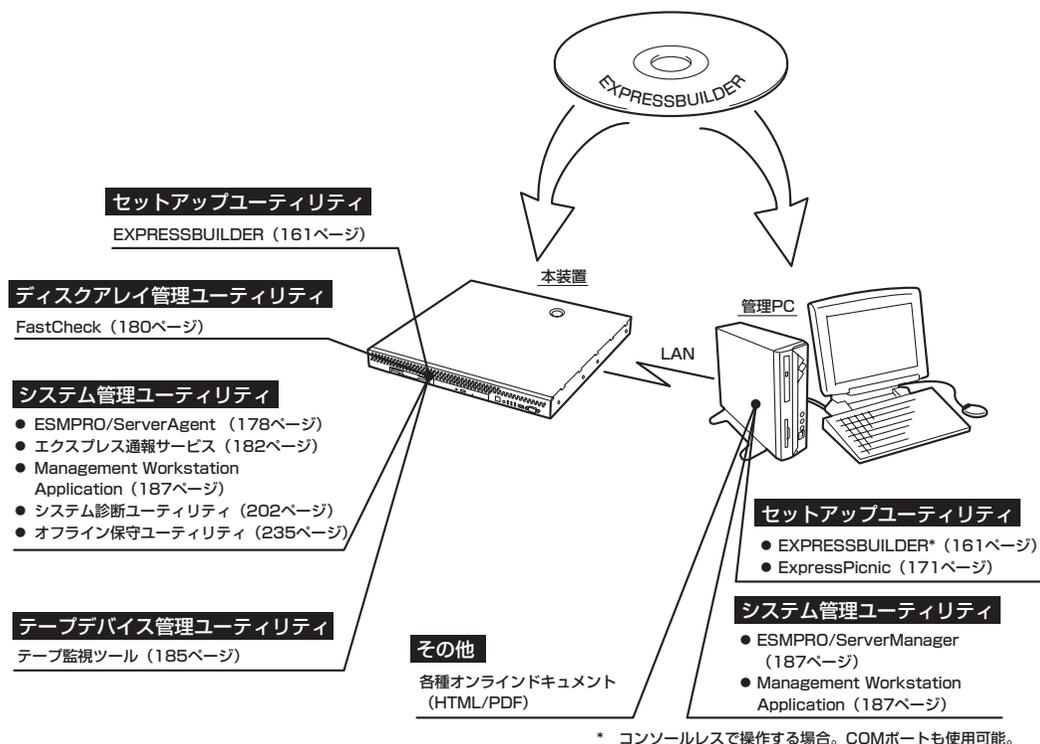
- 添付のCD-ROMについて(→160ページ) 本体に添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに
収められているソフトウェアについて紹介しま
す。
- EXPRESSBUILDER(→161ページ) セットアップツール「EXPRESSBUILDER」につ
いて説明します。
- ExpressPicnic(→171ページ) シームレスセットアップ用パラメータディスク
(セットアップパラメータFD)を作成するツール
「ExpressPicnic」について説明します。
- Express本体用バンドルソフトウェア(→178ページ) 本装置にインストールするバンドルソフトウェア
について説明します。
- 管理PC用バンドルソフトウェア(→187ページ) 本体を監視・管理するための管理PC にインス
トールするバンドルソフトウェアについて説明し
ます。

添付のCD-ROMについて

添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。紛失しないように大切に保存しておいてください。



- EXPRESSBUILDERに含まれていない管理ソフトウェアについては、各ソフトウェアに添付の説明書を参照してください。
- ディスクアレイの設定をするRAIDユーティリティはボード上のチップに搭載されています。これらのユーティリティの操作方法については、ボードに添付の説明書を参照してください。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスク(またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ)だけを接続してセットアップしてください。

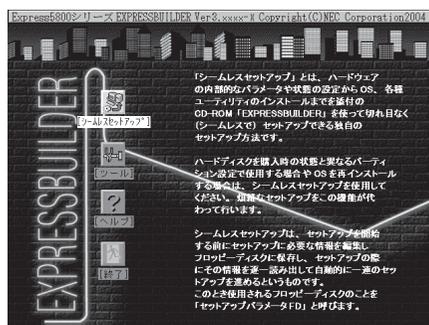
起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

● EXPRESSBUILDER CD-ROMから起動する

EXPRESSBUILDERを本体のCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でシステムを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本装置をセットアップします。



重要

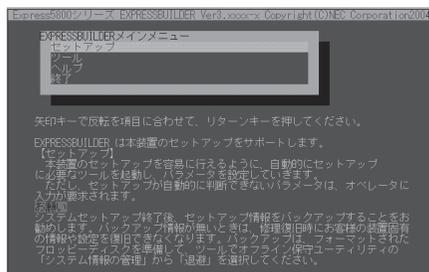
- 本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDER トップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。

● コンソールレスでEXPRESSBUILDER CD-ROMから起動する

キーボードやマウス、ディスプレイ装置を本体に接続していない状態でEXPRESSBUILDERを起動すると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、右に示す「EXPRESSBUILDERメインメニュー」が表示されます。

管理PCからこのメニューにある項目を使って本装置を遠隔操作をします。



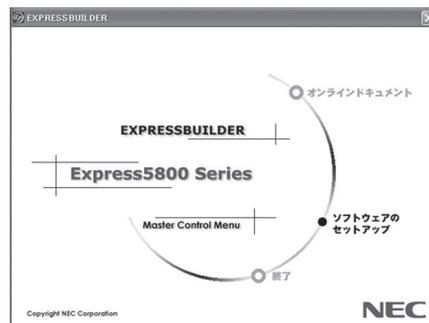
- 本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレス時の使用は、本体のマウス/キーボードコネクタにキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボード(USBキーボードは除く)が接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

EXPRESSBUILDERメインメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS (オペレーティングシステム) のセットアップとインストールをするときに使用します。



BIOS の設定を間違えると、CD-ROM から起動しない場合があります。EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS SETUPユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目に設定。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
2. 本体のCD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする (<Ctrl> + <Alt> + <Delete> キーを押す) が、電源をOFF/ONして本体を再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。

シームレスセットアップ

セットアップパラメータFDの情報を参照して、切れ目なく(シームレスに)セットアップを行います。OSの再インストールを行う場合、こちらのセットアップ方式を選択してください。

ツール

EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。

ヘルプ

EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通していただくことをお勧めします。

終了

EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内蔵的なパラメータや状態の決定からOS、各種ユーティリティのインストールまでを単一のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を従って切れ目なく(シームレスで)セットアップできる独自のセットアップ方法です。

ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合はOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。通常のセットアップはこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集し、フロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を差込み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このように使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows Server 2003/Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

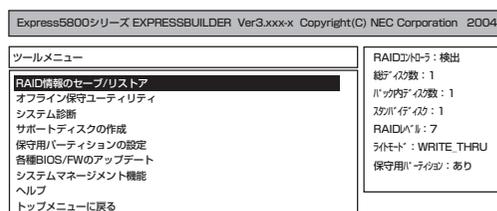


セットアップを開始したら、完了するまで本体の電源をOFFにしないでください。また、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



● RAID情報のセーブ/リストア

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピーディスクから復元することができます。

ー RAID情報のセーブ

ディスクミラーリングコントローラのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。RAIDの設定や変更を行った時は、必ず本機能を使用してコンフィグレーション情報をセーブしてください。

ー RAID情報のリストア

フロッピーディスクに保存されたコンフィグレーション情報をディスクミラーリングコントローラ上のNVRAMとハードディスクに復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。コンフィグレーション情報が万一破壊された場合や、誤ってコンフィグレーション情報を変更してしまった場合は、本機能を使用してコンフィグレーション情報をリストアしてください。

例えば、故障などによりディスクミラーリングコントローラを交換する場合、ハードディスク上のコンフィグレーション情報をディスクミラーリングコントローラのNVRAMへ保存する必要がありますが、もし誤ってNVRAMのコンフィグレーション情報をハードディスクに保存してしまった場合は、本機能を使用してリストアしてください。



この機能をサポートしていないディスクミラーリングコントローラもあります。その場合、このメニューは表示されません。



この機能は保守用です。保守以外の目的で操作しないでください。誤った操作を行うとデータを損失するおそれがあります。

● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は235ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。202ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

ー Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003 Standard Editionをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

ー Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000 Serverをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

ー ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

ー オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

ー システムマネージメント機能

BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。

● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「FDISKの起動」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、9ページを参照してください。

 **重要** 「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、リセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

ー 保守用パーティションの作成

保守用として内蔵ハードディスク上に領域を確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

ー 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ(システム診断/システムマネージメント機能/オフライン保守ユーティリティ)を、EXPRESSBUILDER CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動した場合に、使用することができます。

ー 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ(システム診断/オフライン保守ユーティリティ)を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

ー FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

● 各種BIOS/FWのアップデート

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『8番街』：<http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows 2000のメモ帳などで読むことができます。

 **重要** BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **システムマネージメント機能**

BMC (Baseboard Management Controller) による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- **ヘルプ**

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

- **トップメニューに戻る**

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、本体にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



- 本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた装置以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレス時の使用は、本体のマウス/キーボードコネクタにキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボード(USBキーボードは除く)が接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

起動方法

起動方法には管理PCと本体の接続状態により、次の2つの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続(COM B)された管理PCから実行する

起動方法の手順については、この章の「MWA」-「コンソールが接続されていない場合のコンフィグレーション方法」を参照してください。



- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。
- LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。
- ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、設定情報を格納したフロッピーディスクが必要になります。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意しておいてください。
- BIOS SETUPを通常の終了方法以外の手段(電源OFFやリセット)で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。

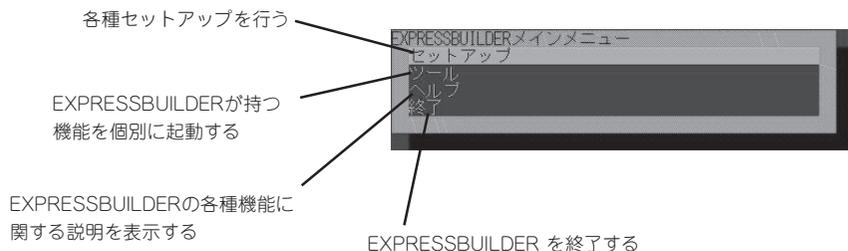


BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- | | |
|----------------------------------|------------|
| — LAN #1: | [Enabled] |
| — Serial Port A: | [Enabled] |
| — Serial Port A I/O Address: | [3F8] |
| — Serial Port A Interrupt: | [4] |
| — Serial Port B: | [Enabled] |
| — Serial Port B I/O Address: | [2F8] |
| — Serial Port B Interrupt: | [3] |
| — BIOS Redirection Port: | [Serial B] |
| — BIOS Redirection Baud Rate: | [19.2k] |
| — BIOS Redirection Flow Control: | [CTS/RTS] |
| — Console Type: | [PC ANSI] |

メインメニュー

管理PCの画面上に表示されるメインメニューは次のとおりです。



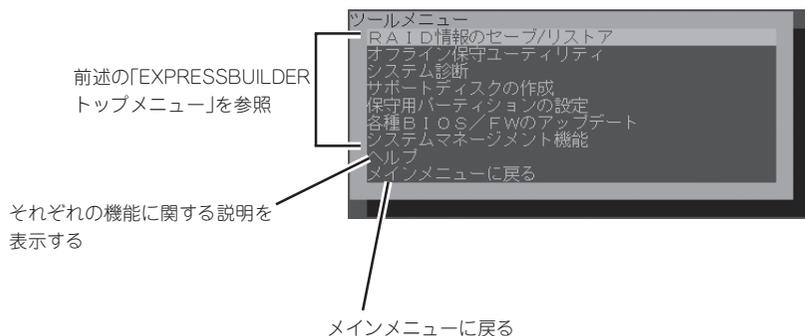
セットアップ

本体のハードウェア構成をチェックして、ディスクアレイコンフィグレーションおよび保守用パーティションの設定を自動的にを行います。



ツールメニュー

メインメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。



「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると次の点が異なります。

- 「システム診断」の内容や操作方法(詳しくは、202ページを参照してください)
- 「サポートディスクの作成」で作成できるディスクの種類

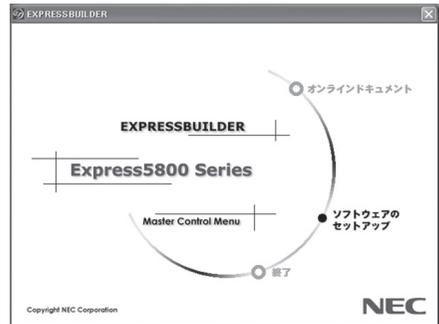
マスターコントロールメニュー

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラなどから実行してください。

CD-ROMドライブレター：
¥MC¥1ST.EXE



マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、本装置のセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERから本装置をセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows Server 2003またはWindows 2000をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

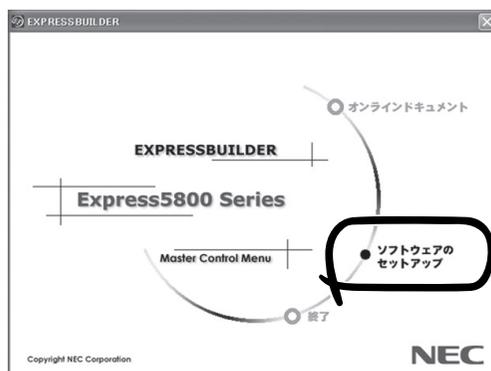
セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。



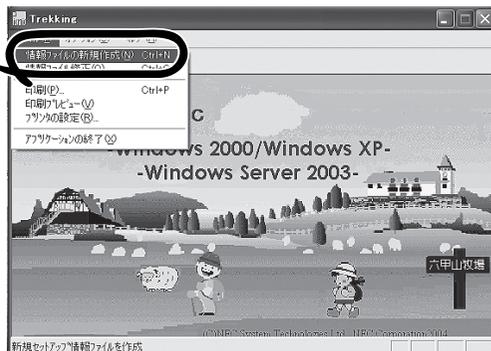
ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
マスターコントロールメニューが表示されます。
3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。
4. [ExpressPicnic]をクリックする。
ExpressPicnicウィンドウが表示されます。



- [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



- 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

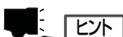


- メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

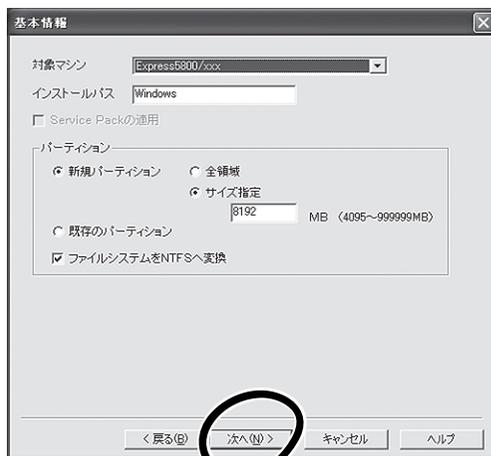
セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル指定]ダイアログボックスが表示されます。



[キャンセル]をクリックすると設定した内容が消えてしまいます。



ユーザー名と会社名を日本語で設定する場合は、ExpressPicnicで設定してください。シームレスセットアップ中に日本語で入力することはできません。ただし、シームレスセットアップを使ったインストールを完了後、ログオンのときに表示されるポップアップ画面で再入力し直すことができます。



- [セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。



9. 1.44MBでDOSフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows Server 2003またはWindows 2000をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnic ウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。詳しくはヘルプを参照してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップに対応している必要があります。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(171ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。



4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

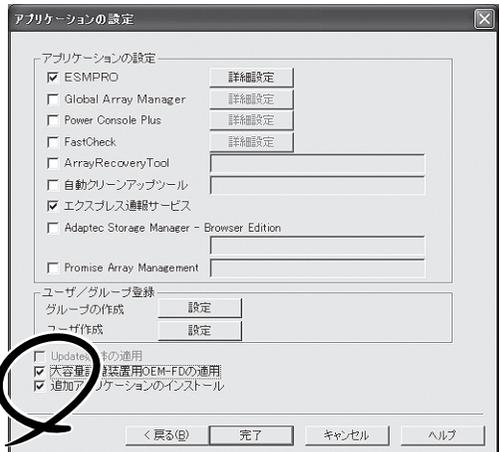


[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。

6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでDOSフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。



大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(171ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

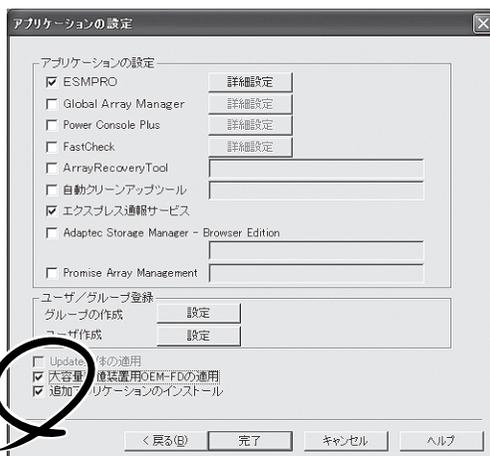


[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。

6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでDOSフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。



稼働機からの情報採取

ExpressPicnicが起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。



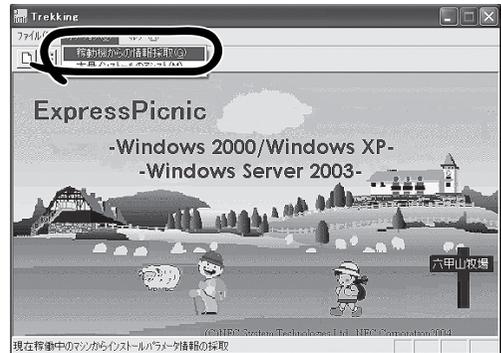
チェック

- ユーザ/グループ情報は採取できません。
- リモートアクセスサービス(RAS)については設定情報を採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。
- Windows 2000のみサポートしています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(171ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[稼働機からの情報採取]をクリックする。

採取後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、採取したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じです。



大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(171ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[大量インストールのアシスト]をクリックする。

3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。
ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。



4. [追加]をクリックする。

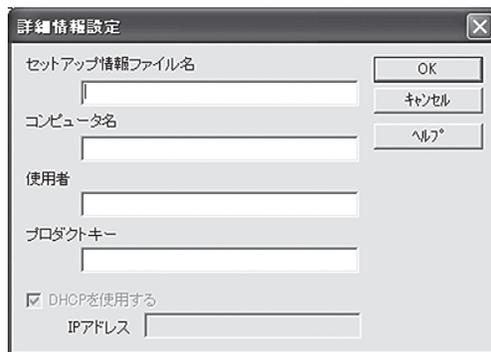


5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

6. [OK]をクリックする。
リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、[FD作成]をクリックする。

選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。



Express本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)は本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。

EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows版)インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

SNMPサービスの設定

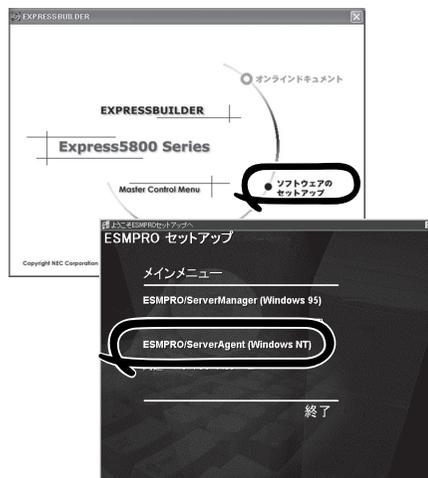
コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[ESMPRO]→[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



管理者権限のあるアカウント (administrator)でシステムにログインしてください。



ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgent (Windows版)の監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてインストールし直してください。

FastCheck

FastCheckは、オプションのディスクミラーリングボードを管理・監視するソフトウェアです。

ディスクミラーリングコントローラに接続したハードディスク(アレイディスク)の監視や状態の表示をしたり、万一、異常が起きたときにピープ音やポップアップメッセージの表示などで通知したりします。

また、ESMPRO/ServerAgent (Ver.3.4以降)との連携により、異常が起きたときにESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PCにアラート通報やALIVE通報をすることもできます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。FastCheckがインストール済みの本体に後からESMPRO/ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールしてからインストールし直してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

FastCheckは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「FastCheck」を選択してください。

シームレスセットアップでFastCheckをインストールした場合、後からESMPRO/ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールしてからインストールし直してください。

確認事項

インストール済みのFastCheckについて次の点を確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]に[Promise]という名前のフォルダが作成されていることを確認する。
- Windowsの起動後のタスクトレイに、FastCheckのアイコン()が表示されていることを確認する (FastCheckはWindows常駐型のアプリケーションです)。
- コントロールパネルのサービスで「Promise FastTrak Service」が開始されていることを確認する。
- FastCheckが起動することを確認する。

[Promise]フォルダの中から[Fasttrak] – [FastCheck Monitoring Utility]の順に選択するか、タスクトレイのFastCheckアイコン()をダブルクリックすると起動します。

- FastCheckを起動後、[オプション]－[通知]－[NTシステムイベントログの使用]がチェックされていること(デフォルト値です)を確認する。



ESMPRO/ServerManagerをインストールした管理PCにディスクミラーリングコントローラに関するアラート通報やALIVE通報をする場合は、「Promise Fast Trak Log Service」が開始されており、FastCheckのオプション設定[NTシステムイベントログの使用]がチェックされていなければなりません。

パスワードの設定

セキュリティ上、FastCheckを起動する際にパスワードによる確認ができるよう、パスワードを登録してください。パスワードはFastCheckを起動後、[オプション]－[パスワードを使用可能にする]を選択すると表示される設定画面で設定できます。

運用上の注意

FastCheckをインストールして運用する上で特に注意していただきたい点について説明します。FastCheckで表示される画面についての説明やその他の注意事項については、オンラインドキュメント「FastCheckユーザズガイド」を参照してください。

- ESMPRO/ServerAgentがインストールされている本体にFastCheckをインストールすることをお勧めします。ESMPROと連携したさまざまな管理・監視機能を利用することができます(ESMPROがインストールされていなくても、FastCheckの動作には支障がありません)。

ただし、ESMPROはVer.3.4以降のバージョンを使用してください。

- FastCheckの設定を変更した場合は、ダイアログボックス内にある[適用]をクリックして情報を更新してから終了してください。
- FastCheckの以下のオプションは既定値から変更しないでください。
 - － [NTシステムイベントログの使用] (既定値: チェック)
 - － [書き込みキャッシュを使用可能にする] (既定値: チェック)
 - － [ホットスペア/自動リビルドを禁じる] (既定値: チェックなし)
- ディスクのリビルドやシンクロナイズ(整合性の確認)の間もアクセスすることはできませんが、処理時間が長くなる場合があります。
- ESMPROからは、ディスクミラーリングコントローラで制御されているハードディスクは、1台のドライブとして認識されます。また、このディスクミラーリングコントローラはディスクアレイではなく、「SCSIコントローラ」として管理されます。

新規インストール

FastCheckを新規にインストールする場合(または再インストールする場合は)、オンラインドキュメント「FastCheckユーザズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストールレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのための契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のESMPRO/ServerAgent
 - 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
 - マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降
- * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。
- (例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン3.8の場合、バージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでない場合、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、本体に接続されたテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。

ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、本体にテープドライブが接続されている場合にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合があります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名: TapeAlertChecker
- スタートアップの種類: 自動
- ログオン: システムアカウント
[デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。次の「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オンラインドキュメントは、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブレター: ¥TpTool¥SG_TP6.pdf

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置 Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ 500KB以上
- ハードディスクの空き容量 2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
 - Microsoft Windows NT 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
 - Microsoft Windows 2000 日本語版

Microsoft Windows Server 2003はサポートしていません。

- アプリケーション
 - － ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
 - － ARCserve J6.5 for Windows NT(全エディション、Patch07が必要)
 - － ARCserveIT J6.61 for Windows NT(全エディション)
 - － ARCserve 2000 (SP2)(全エディション)
 - － BackupExec for Windows NT Ver.7.3
 - － BackupExec for Windows NT Ver.8.5
 - － NTBackup(Windows NT標準装備のバックアップツール)
 - － #BKUP

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2002年9月現在)。

- 内蔵/外付AIT N8151-28/-34/-34A/-41/-41A/-44/-46、
N8551-19/-28/-34、N8560-16
- 内蔵/外付AIT集合型 N8151-29/-36、N8551-20/-29/-36、
N8560-17
- 内蔵/外付DAT(DDS3) N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、
N8560-12/-12AC
- 内蔵/外付DAT集合型(DDS3) N8151-13AC、N8551-13/-13AC、
N8560-13/-13AC
- 内蔵TRAVAN N8551-21
- 外付TRAVAN集合型 N8560-19
- 内蔵/外付DAT(DDS4) N8151-26/-43/-45、N8551-26、N8560-22
- 内蔵/外付DAT集合型(DDS4) N8151-27、N8551-27、N8560-23
- 内蔵SLOT N8151-38
- 内蔵LTO N8151-37/-40
- 外付LTO N8160-39

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましてはNECのWeb情報ページにある「NEC 8番街(<http://nec8.com/>)」の「サポート情報」-「商品情報・消耗品(Express5800・テクニカルガイド)」にある「バックアップ装置」を確認してください。

インストール手順

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにある「setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブレーン:¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。

インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。

監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

管理PC用バンドルソフトウェア

装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」を参照してください。

MWA - Management Workstation Application -

MWAは、ネットワーク上から管理PC (ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ) を使用して、本装置をリモート管理するためのアプリケーションです。

MWAの機能や運用方法については、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの以下のパスに格納されている「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

<CD-ROMのドライブレータ>:¥mwa¥doc¥jp¥mwa_fsg.pdf



MWAのインストール方法は、オンラインドキュメントで説明します。「MWAインストールガイド」を参照してください。

通信方法

MWAを使用する管理PCがLAN、ダイレクト(シリアル(COM)ポート)のいずれかの方法で本体と接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。



- シリアルポート接続はシリアルポートBのみ使用可能です。LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。
- モデムを介したリモート管理はできません(本装置ではサポートされていません)。

MWAの機能

MWAは本体のシステムBIOSやベースボードマネージメントコントローラ(BMC)と接続することにより以下の機能を実現しています。

● リモートコンソール機能

装置のPOST実行画面およびROM-DOS/MS-DOSのブート中の実行画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見るができます。またこの間、装置を管理PCのキーボードから操作できます。



- 本装置では、LAN経由のリモートコンソール実行中に、BMCがCOM Bポートを占有する場合があります。このとき、OS上からのCOM Bポートは使用不可となります。
- 本装置でLAN接続によるリモートコンソールを実行する場合は、本体の電源のON/OFFやリセットは、MWAからリモートで操作してください。また、LAN経由のリモートコンソールは自動接続で実行してください。自動接続の設定はMWAファーストステップガイドを参照してください。
- 本装置では、LAN/シリアル接続によるリモートコンソールを行う場合はBIOSセットアップで[Advanced] - [Memory Configuration] - [Memory Retest]を[No]に設定してください。
- BIOS SETUPを通常の終了方法以外の手段(電源OFFやリセット)で終了すると本装置上のコンフィグレーションのリモートコンソール設定項目が無効になる場合があります。

● リモートドライブ機能*

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたはフロッピーディスクのイメージファイルから起動することができます。

* LAN接続時のみの機能です。



本装置では、起動するOSやアプリケーションが使用するメモリサイズの関係でリモートドライブで正しく起動できない場合があります。

- **リモート電源制御**

管理PC上のMWAからリモートで、装置に対して以下の電源制御が行えます。

- － パワーON/OFF
- － パワーサイクル (パワーOFFの後、しばらくしてパワーON)
- － リセット
- － OSシャットダウン*

* 本コマンドをサポートしているESMPRO/ServerAgentがインストールされている場合のみの機能です。

- **リモート情報収集**

管理用PC上のMWAからリモートで以下の情報を収集することができます。

- － システムイベントログ(SEL)
- － センサ装置情報(SDR)
- － 保守交換部品情報(FRU)
- － BMC設定情報

- **ESMPROとの連携***

本体のBMCからの装置異常などの通報を受信すると通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

* LAN経由のみの機能です。

動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

- **管理PC(インストールするコンピュータ)**

MWAはWindowsが動作しているコンピュータ上で動作します。詳細は「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

- **MWAでリモート保守する装置**

保守する装置に添付のユーザズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置には、RomPilotまたはBMCが搭載されています。本装置にはBMC(IPMI Ver.1.5)が搭載されています。

MWAのインストール

MWAを使って装置を管理するには、本体側にMWA Agentを、管理PC側にMWA Managerをそれぞれインストールしてください。



- MWA AgentはBMCをコンフィグレーションするためのツールです。Windows上からBMCをコンフィグレーションしたい場合にインストールしてください。MWA Managerから本装置をリモート制御する際には、MWA Agentは必要ありません。
- MWAのインストール方法の詳細は、オンラインドキュメントで説明します。「MWAインストールガイド」を参照してください。

MWA Agentのインストール

MWA Agentは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って本体にインストールします。

1. Windowsを起動する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

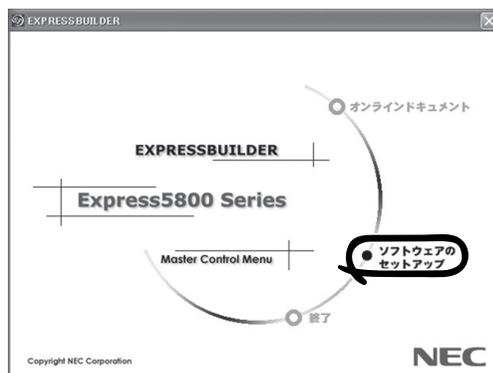
3. [ソフトウェアのセットアップ]—[MWA]の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもメニューが表示されます。

4. [MWA Agent]をクリックする。

MWA Agentのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



MWA Managerのインストール

MWA Managerは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動する。

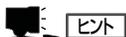


MWAが動作可能なOSについて、「MWAファーストステップガイド」を確認してください。

2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

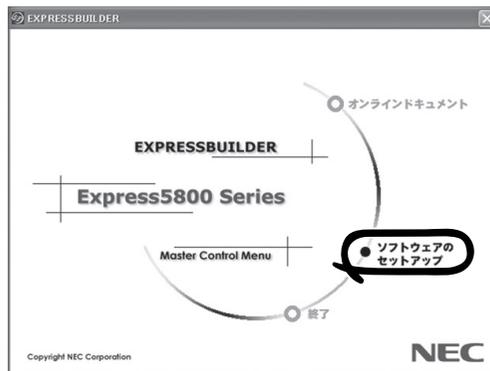
3. [ソフトウェアのセットアップ]—[MWA]の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもメニューが表示されず。

4. [MWA Manager]をクリックする。

MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



コンフィグレーション

コンフィグレーションに必要なものは次のとおりです。

- EXPRESSBUILDER CD-ROM
- 設定情報

コンフィグレーションはMWA側と装置側の両方必要です。MWA側ではリモート管理する装置の台数分の設定情報が必要です。

装置側のコンフィグレーションには2通りの方法があります。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから本体を起動して実行する「システム管理の設定」によるコンフィグレーションと本装置のWindows上から起動するMWA Agentによるコンフィグレーションです。

詳細な手順については「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にある「MWAファーストステップガイド」またはMWAのオンラインヘルプを参照してください。

コンソールが接続されていない場合のコンフィグレーション方法

本体にキーボードなどのコンソールが接続されていない場合、EXPRESSBUILDERのコンソールレス機能を使ってサーバ側のコンフィグレーションをして、サーバ上のBIOS SETUPやDOSツールをリモート操作することができます。

次の2つの方法があります。

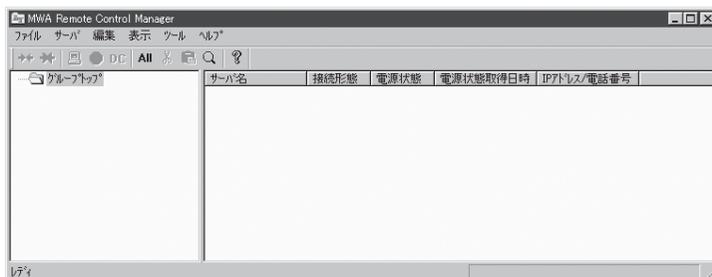
- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続された管理PCから実行する

LAN接続された管理PCから実行する

LAN接続されている管理PCから、以下の手順で実行します。

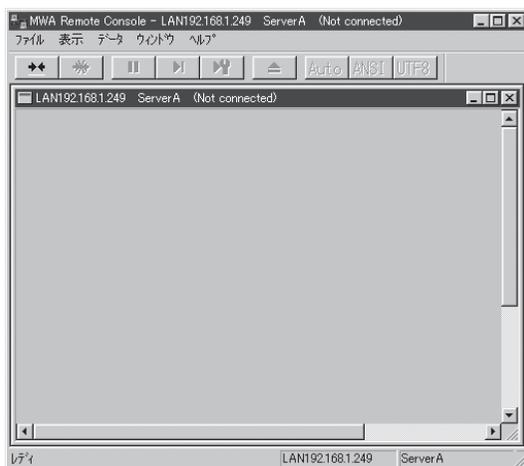
1. MWAをインストールした管理PCを起動し、スタートメニューから[プログラム]—[NEC MWA]—[MWA]の順にクリックする。

MWAが起動し、初期画面の「Remote Control Manager」が表示されます。



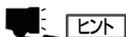
2. フォーマット済みの1.44MBのフロッピーディスクを管理PCのフロッピーディスクドライブにセットする。
3. MWAの[ファイル]メニューから[コンフィグレーション]コマンドを選択して[コンフィグレーション]ダイアログボックスを表示させる。
4. [新規作成]をクリックして[設定モデルの選択(新規作成)]ダイアログボックスを表示させる。
5. [FD書き込みを行う]にチェックし、管理対象装置のモデル名を選択する。
管理対象装置の種類に応じたコンフィグレーションダイアログボックスが表示されます。
モデル名は本体前面に印刷されています。
6. コンフィグレーションダイアログボックスで管理対象装置の以下の情報を設定/登録する。
 - コンピュータ名(サーバ名。管理対象装置を示す任意の名前)
 - IP アドレス
 - デフォルトゲートウェイ
 - サブネットマスク
 - 1次通報先(管理PCのIPアドレス)
7. 設定/登録後、以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。
<コンフィグレーション情報ファイル名>
CSL_LESS.CFG
8. サーバ名を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させる。
9. [プロパティ]ダイアログボックスが表示されたら、以下のようを設定する。
 - <[ID]ページ>
接続形態： LAN
 - <[アラート通知]ページ>
[標準設定を使用する]のチェックを外して[アクティベート]のリセットにチェックする。

10. サーバ名を右クリックして表示されるメニューから[リモートコンソールの起動]コマンドを選択して[MWA Remote Console]を開く。



11. サーバウィンドウ上で右クリックして表示されるメニューから[リモートコンソールの動作指定]コマンドを選択して[リモートコンソールの動作指定]ダイアログボックスを表示させ、[MWAモードで実行]を選択する。
12. 管理対象装置のCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットし、コンフィグレーション情報ファイルを格納したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。
13. 本体の電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

1回のレポート後、各種PCの画面上にメインメニューが表示され、ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。



フロッピーディスク内のコンフィグレーション情報ファイルの内容が管理対象装置に既に設定されている場合は、レポートせずにメインメニューが表示されます。

14. 管理PCの画面上にメインメニューが表示されたら、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出す。
15. 管理PCの画面上にメインメニューが表示されているときに、MWA Remote Control Manager上でサーバ名を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]コマンドを選択する。
16. [プロパティ]ダイアログボックスの[ID]ページで[接続チェック]をクリックして、対象装置との接続を確認する。
17. EXPRESSBUILDERに格納されていないツールを使用する場合は、EXPRESSBUILDERを終了し、CD-ROMドライブから取り出した後、MWAの電源制御コマンドを使って電源OFF/ONする。

MWA Remote Control Manager上で、サーバ名を右クリックして表示されるメニューから[電源制御]コマンドを選択することでサーバの電源を操作できます。



リモートコンソール接続での作業を終了したら、[プロパティ]ダイアログボックスの[アクティベート]のリセットのチェックを外してください。

11. 管理対象装置のシリアルポートBに管理PCをダイレクト接続する。
12. 本体のCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットし、コンフィグレーション情報ファイルを格納したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。
13. 本体の電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

1回のリポート後、各種PCの画面上にメインメニューが表示され、ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。



フロッピーディスク内のコンフィグレーション情報ファイルの内容が既に管理対象装置に設定されている場合は、リポートせずにメインメニューが表示されます。

14. EXPRESSBUILDERに格納されていないツールを使用する場合は、コンソールレスメニューを終了し、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブから取り出した後、本体の電源をOFF/ONする。



リモートコンソール接続での作業を終了したら、[MWA Remote Console]ウィンドウの[切断]をクリックしてください。

